

**2021年3月期  
決算発表 質疑応答**

(受注について)

**Q 1. 営業人員が減少した理由について教えてください。(決算説明会資料 p17)**

A 1. 退職者数は減少傾向にあるものの、採用基準を厳格化している中での新型コロナウイルスの影響で入社数が減少したことにより、営業人員が減少しました。引き続き、採用活動および育成強化に注力してまいります。

**Q 2. 2022年3月期の受注計画5,200億円に設定した背景を教えてください。(決算説明会資料 p27)**

A 2. ①前期(2021年3月期)ほど新型コロナウイルスの影響が無いと想定されること、②商業施設等の非住宅分野の成長性、③営業要員の充足等を踏まえると、2021年3月期ほどの低い水準で推移していくことは無いと考えられますので、受注計画達成に向け尽力してまいります。

(完成工事高・完成工事総利益率について)

**Q 3. 2022年3月期の完成工事高計画4,300億円の達成見通しについて教えてください。(決算説明会資料 p26)**

A 3. 2021年3月期末の受注工事残高7,568億円の工事の進捗、及び2022年3月期第1四半期の受注案件の当期着工を踏まえ、4,300億円を計画しております。

**Q 4. 2022年3月期の完成工事総利益計画の「為替・輸入資材」と「繰延利益」の影響について、具体的に教えてください。(決算説明会資料 p26)**

A 4. 「為替・輸入資材」については、北米の木材価格の上昇により、前期比1.5ポイントの低下を見込んでおります。一方で、「繰延利益」については、住宅金融支援機構の融資割合低下による大東ファイナンスの2次融資の減少を想定し、1.1ポイントの上昇を見込んでおります。

(不動産事業について)

Q5. 不動産事業の利益率改善の余地について教えてください。(決算説明会資料 p9)

A5. 近年の利益上昇の大きな要因の1つとして、「連帯保証人不要サービス」を提供しているハウスリーブ株式会社の収入拡大があります。今後も、ストックやボリュームを活かしたビジネスを構築することで、利益率の維持、向上を目指してまいります。

(その他について)

Q6. 賃貸住宅の着工シェアの見通しについて教えてください。(決算説明会資料 p52)

A6. 2021年3月期は、第1四半期の受注減が着工戸数減少につながりました。今年度は受注増加を見込んでおり2022年3月期の着工戸数は増加すると考えております。

Q7. 今後の建設事業と不動産事業の考え方について教えてください。(決算説明会資料 p29)

A7. 建設事業の成長によって、仲介斡旋や建物管理等の不動産事業を成長させるというビジネスモデルに加え、管理戸数を活かしたストックビジネス等、不動産事業単独でも成長モデルを構築できる段階になったと考えております。よって、建設事業においては、より質の高い建物の提供や長期的マーケティング戦略を実行しつつ、建築事業、不動産事業を成長させてまいります。

Q8. 北米の輸入木材の価格上昇は、その他の木材費にも影響がありますか。また、輸入木材の価格上昇が反映されてくるタイミングを教えてください。

A8. その他の木材費については、大きな影響は無いと考えております。また、輸入木材の価格上昇が反映されてくるタイミングとしては、約半年後です。

Q9. 輸入木材の為替レートについて、2021年3月期実績と2022年3月期計画を教えてください。

A9. 2021年3月期は105円、2022年3月期は平均して108円程度を想定しております。

Q10. 温暖化ガス排出削減に対する考えを教えてください。(決算説明会資料 p37)

A10. SBTやEP100、RE100などにおける目標を掲げ、日々、達成に向けた取り組みを推進しております。また、2020年度はエコファースト企業にも認定されました。引き続き、オーナー様や入居者様にもご協力いただきながら、目標達成ができるよう取り組んでまいります。

Q11. 相続登記の義務化という話がありますが、何か影響はありますか。

A11. 土地や建物の利活用が促進されるのであれば、事業機会になるのではないかと考えております。具体的な内容等については、引き続き注視してまいります。

以上